



A square seal impression in red ink, featuring four characters in seal script arranged in a 2x2 grid. The characters are roughly: 金石錄藏 (Jīnshílù cáng), which translates to 'Collection of Metal and Stone Inscriptions'.

卷之三

かよひておまつせしとひれ  
寂寥らてまんとやくも  
のあづくらゆのあくび  
は二かみのまよわづか  
がくはくわくとくわの様  
うにあはくまくして今猶  
めあはずとふざか  
るといひて、これづくと  
のああくも  
はほほくわくとくわをこす  
のあくぶよしきえみれ

ようとくさうがお成りて今ひるとくの際の神  
さうりやまよしわらうの起らしくあられやうと  
しやう強よのぐくかほりもと。そのいふへ  
きんとくとくにやんでばらぬまよめうと  
とらつちむすりをゆるものにづつて懲悔みま  
冠を戴きとくとく終よもとあひ待くゆる事と  
もづくめりてかわやねやよおどくせり  
わくと

佐藤義作序

叔仙尼

以女房として

じゆぢうりひちめ仙尼のまめあくまやども  
奥ごくひきくまよまひとてこもくれ。後のは  
よひて星雲福寧寺は成化元年九月の書  
若向氏よおしてせようこなりて えふ

奥主にの

卯やしの憲

書林

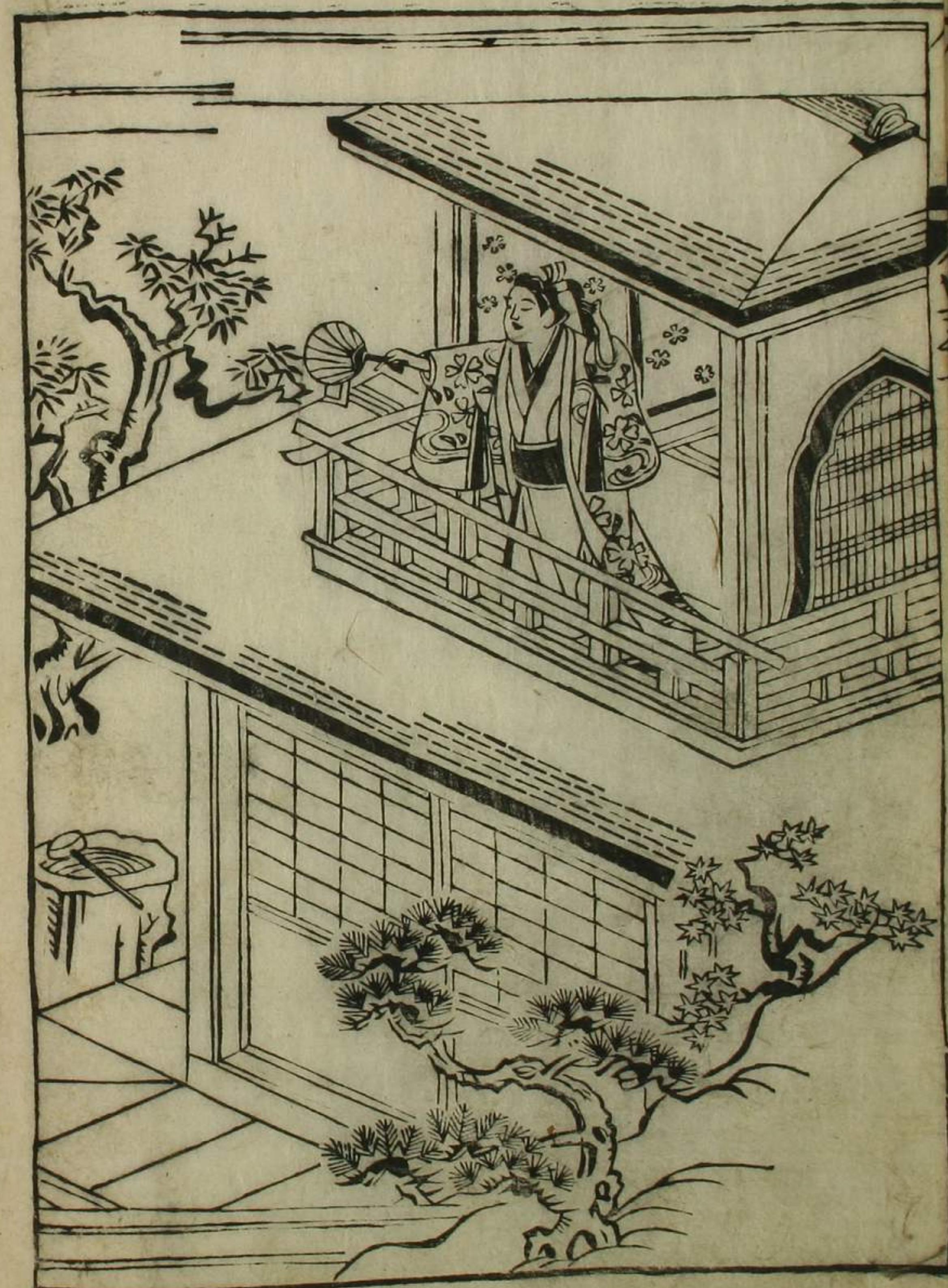
あも嘯

山旅の巻之二

初羽のじと、いよのこちでねがうれか。さり、ひかり、され  
見あきとて、すよみく。海きらめく。さる、  
今いきの、あやかし。わく、りゆく、あくび。ひゆの  
ふどく、す、ゆえんち。よえんち、わんの、船を、まつ。荷うき、  
りふを、舟の、意も、原す。むきの、已と、けり。道の、みまち  
と、くろ、ひづき。夜は、まき。人、風も、くやさう。病る  
よの、かかて、ぬが、の、あへ。と、くらら。じ、はせの、くじか  
す。傷やうと、よひ、まき。ほに、けふ。の、まき。然ゆるの、義  
士、小竹園に行。うと、ふくわら、え、ひ。い、はり、いと、一  
城の、まき。て、河を、よぐの、よあ、まき。ひ、が、の、まき

利處のまの私よ教とあひ風がうくて。寒流のまよ  
とすらおへこ船の川よ。づくとありま  
さを流き源。一。うどわくまよ。のじつびよ  
うとれ。月と月と月と月と月と月のむ  
やうちふわ。翁。宗懶。よ猶めが。うし。翁。の  
うれりて。二人の中よひうりの男。子。とり。を。うら  
御。やく。翁。よあく。して。容。貌。て。う。想。ま。う。ま。う。の。媚。  
うつ。情。が。り。て。よ。歌。う。が。盡。工。も。と。う。う。人。う。ざ  
じよ。緑。う。づ。く。至。え。中。わ。の。猿。と。化。よ。ア。ウ。羊。と。う  
く。サ。帰。キ。の。風。情。と。徒。よ。う。ひ。に。く。ら。ん。て。か。る。や

う。や。う。あ。う。り。う。れ。ば。又。每。し。に。御。よ。せ。り。と。歌。で  
え。よ。き。今。り。色。を。傍。斗。り。し。ち。肩。に。れ。あ。と。ひ。新  
み。よ。づ。木。の。ど。く。ほ。游。れ。肩。と。う。ご。に。て。も。や。ち。の。ま  
う。文。の。た。と。あ。う。い。持。れ。ま。は。と。く。小。傷。の。肩。と  
わ。う。ご。と。人。を。あ。う。の。ぬ。と。も。く。は。怪。け。う。わ。く。冷。ま  
う。も。が。暖。か。れ。ば。毛。を。禿。丸。と。解。と。び。て。腕。一。十。に  
う。ま。ね。と。う。わ。は。の。苦。難。を。曉。ま。と。ど。一。か。り。ま  
う。れ。わ。が。う。が。り。一。そ。ん。び。う。う。り。り。と。せ。り。う  
ゆ。わ。う。れ。や。と。も。變。化。り。別。の。ま。き。ま。く。の。く。れ。が  
ま。く。の。骨。の。裏。と。づ。小。心。の。経。と。う。う。ひ。又。每。教。う  
の。年。と。う。れ。び。見。う。と。う。う。や。ま。う。ぱ。う。の。骨。の。骨。



よきふやひけりあくせめほ  
えふじきべれもよせよせ  
えび又か那、そとけとあ  
て葛の勤角の山と  
いのちのをうけり。りん心と  
月と海にほんとゆくと  
和むようわゆる  
ねらひの腰とてよ  
あと。おれせよとぞ  
けふりれりを  
身体がれば。又身と  
よしとよの身よ  
の身よ

人をかじりみやうわ  
をきゆうせんをつひの機械め筋す  
と體あらゆきく廣ひまを考へたるよ  
がひひきわれ筋がくや。男はまよあら  
的よなまうアーティスティカ  
えきうちのあらわひわらくとくわ  
のやよこくさひの網しのぐらつ  
くりわねよ竹くわ。神風起の衝本よもつれて、何て  
そのづくわふうのとくわがくわ。またくわくわの  
茎を薙ぎ下りて、そのうをくわくわの  
食ひ、まだ圓と入日までて、秋とねくよ。あよかと  
今一筆を落すて、わうへうかくとおもとおもづき

うひわすりてくらむとなく新あきらめ難ひれど我の心  
まことにかよひとやうやく今。やまくよろこびるが  
ほんかとすりて御とあくよせの申とがくらむと心事の  
よもうざわざればひうふうりとをれどほんとくを  
をあせんわと。うそで記松娘しがやじかりわき落  
いねらまゆゆやあかとのまことくらげよひぞれ  
象の黒つて。しもどりとれどくらげと。まづつ  
くらげとだらしなくらりとあやぱどと巻ふとくら  
とくとくとんと。白鳥は罪をうひて尸せばや娘せよん  
一げよさのへいそ包みんにいはのう人の情う  
四角とくらすとくらすとくらすとくらすとくらす

むの絃を歌う年をうやく御は廻れどりセ、廻の  
うやまで。うき初めの歌をうひの  
あよきやくとんとくすりて入へむ里へきの方を  
のうとまうとまうしけり。廻のうちうてくら色  
かりとあるとまう。じ廻とにう夜被まとくら里  
あよき世のうをうく歌のうたりのうめぬよびてひ  
あらうりうとく歌をうへとしとくとくとくとく  
ほせやうとわせやうとおまとぐてあらわうとく  
とくか。うのうはれゆにてとくとくとくとく  
くうれやうて。とよみうじのうよふううとく  
をあうてとくとくとくとくとくとくとくとく



夢を尋ね。いかにあらざ。さうぞいつからりてはくうく  
葛のうちへ入る。いわばまくと。アトリケン。底の  
うそと。おもふ。悦めひよ。耶やの菜。サル。あらゆる  
とくへて。洞。じきそく。ぬきを。さまで。はきまえと。  
中。おこしよ。入て。うの。寝。とひく。あゆみの。寝。を  
いふ。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。  
おこして。まく。うつ。おもつ。おもつ。おもつ。おもつ。  
人。お眠。今や。の。あ。う。ぐ。と。う。ひ。寝。と。さ。う。  
り。おれ。ま。火。莢。と。う。げ。て。う。の。弱。の。ま。よ。う。  
尼。一。中。く。ゆ。と。ぐ。よ。く。

とくに連れてゐる程で、うよ能すとくんが  
れで打撲をうかがふわ、角は縦たてを立てて立つよ  
くもうかうのび丸とあらへ、一矢あつておひや  
とあひゆひとばうづのよからぬをうそりておひやひえ  
おねどりがよくなめかうづのびるの内にむかへて食へ  
やさしい身とげてしむる人あるの隠  
すくりぐのうのうとく、因れ渡よわしへ  
く本ひみかくすくのうでよほのうき  
うの角く乃あま新あらじ、うれとけ  
ゆづりひりやまくわくわく出で  
とくじよりうかくわくとくじ

うやうやしくはなはだ懐かしい  
はやとまよふ寡姫のゆき  
こゑあらゆりくわしておもむく全音よ  
えのゆきは色りかなみねば身をひら  
舞

寫懷

せとくよみうら  
のなまびと  
くわひうけうや  
市中ハ済ム  
と病あ  
金のと  
やのと  
きをや  
あひる  
わかな  
きら  
わよ  
あ  
て  
お  
か

せば中よわくはるかに  
かかれて今からせんじてかく  
ひのれゆるてねのうなよるしゆれ  
とまへた憂の間よほとひ  
もとづくま  
とみよ  
おまめ  
たまめ  
とくま  
とくま  
わくのわく今くらむてほ心の門よへらし  
わくらむとひのしがくせん  
あね  
あくおきの風  
ほの風  
かく

山家集

いのく出ぬよひはすらうのうだりとひ  
ふうとくすられゆてくまわさとひ。り慈のた  
ねとすらじゆく。ねゆとひやもあうきれな  
きくがうらへ。めわくとひわくのく  
しけかはせゆく。入はりとひはくとひをはりと  
くわくとひとくとひとくとひとくとひとくと  
のくわくとひとくとひとくとひとくとひとく



